

PRAEVIDENTIA DAILY (2月20日)

昨日までの世界：日銀効果剥落 VS 米テーパリング継続姿勢

昨日は、新興国通貨の売り圧力再燃の影響もあってドルが全般的に堅調となり、主要通貨ではカナダドル、豪ドル、NZドルも悪影響を受けたとみられるが、その他主要通貨は概ね小動きとなった。新興国では、ウクライナやタイの情勢が悪化している中、南ア CPI の予想比上振れ（前年比+5.7%の予想に対し+5.8%）もあって総じて下落、前日の中銀政策金利据え置きでも特段売り圧力を受けていなかったトルコリラが最も大きく下落した。

ドル/円は、前日の日銀の追加緩和姿勢の意味合いに対する理解が広がったためか、円買戻し圧力が徐々に強まり、米長期債利回りの低下基調もあって一時 102 円割れへ下落した(101.85 円)。米住宅関連指標も前日の NAHB 住宅市場指数の急落に続き市場予想を大きく下回り、住宅着工件数が予想の 95.0 万件に対し 88.0 万件、天候の影響を受けにくいとされる建設許可件数も予想の 97.5 万件に対して 93.7 万件となったこともドル売り要因となった。もっとも、その後ドルが急速に買い戻され、FOMC 議事要旨も経済見通しが著しく悪化しない限り資産購入縮小を継続する姿勢を示し、慎重論があまり強くなくタカ派的な内容と受け止められたことから、発表後に米長期債利回りの大幅持ち直しと共に 102.47 円まで回復した。但し結果として前日終値対比では横ばいで、方向感が出ないレンジが続いている。

ポンドは、前日の CPI 下振れに続き、12 月失業率も 7.2%と前月および市場予想（7.1%）を上回ったことから続落し、対ドルで一時 1.6637 ドルへ下落した。但しその後は、米住宅指標の予想比悪化を受けたドル安を受けて持ち直した後、FOMC 議事要旨を受けたドル反発で反落、結果としてポンド/ドルはドル/円と同様に前日終値対比横ばいに収まり、悪材料の連続にも拘らず持ちこたえている。

なお、昨日はカナダドルが対米ドルで 1%以上の下落を示した。カナダ卸売売上高の予想比下振れ（予想-0.4%に対し実績-1.4%）はあるものの、新興国通貨下落の影響や、カナダが外貨準備強化のため米ドル建て債を発行すると発表したことが、逆にセンチメントを悪くしたかもしれない。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.0	+0.01	+0.02	+0.00	+0.03	+0.03	+0.00	-0.7	-0.5	+1.0	+0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	-0.02	-0.00	+0.02	-0.04	-0.01	+0.03	+0.1	-0.7	+0.0	+0.04
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	-0.02	-0.00	+0.02	-0.05	-0.02	+0.03	+0.0	-0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.3	-0.05	-0.04	+0.02	-0.07	-0.04	+0.03	-0.7	+1.1	+1.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.4	+0.02	+0.04	+0.02	-0.04	-0.01	+0.03	-0.7	+1.1	+1.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+1.2	+0.01	+0.02	+0.01	+0.03	+0.03	+0.00	-0.7	+1.0	+1.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

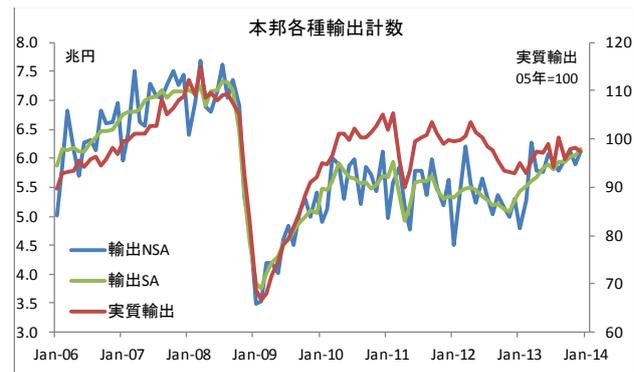
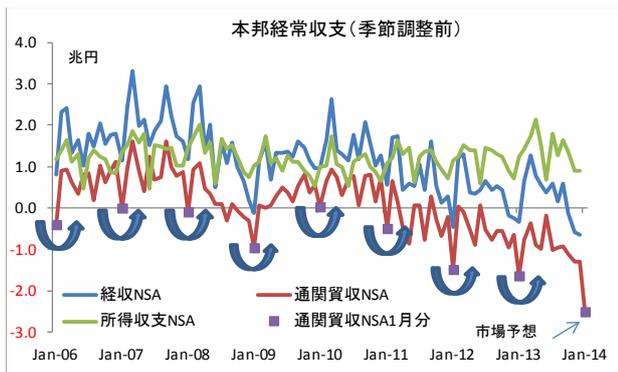
きょうの高慢な偏見：夜明け前が一番暗い？

本日の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
English・NZ 財務相発言	8:00			NZ ドル安誘導継続か
本邦 1 月通関貿易収支・季調前	8:50	-1 兆 3042 億円	-2 兆 4870 億円	
同・季節調整後		-1 兆 1486 億円	-1 兆 1510 億円	
同・輸出前年比		+15.3%	+12.7%	
Williams サンフランシスコ連銀総裁発言	9:00			中立、投票権なし
中国 2 月 HSBC 製造業 PMI 速報	10:45	49.5	49.5	
ユーロ圏 2 月総合 PMI	18:00	52.9	53.1	
Constancio・ECB 副総裁発言	19:30			量的緩和やマイナス金利化に慎重
米 1 月コア CPI・前年比	22:30	+1.7%	+1.6%	
米新規失業保険申請件数	22:30	33.9 万件	33.5 万件	
米 2 月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ	0:00	9.4	8.0	
G20 財務相・中銀総裁代理会合				G20D。22 日まで。

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円では、本邦 1 月貿易収支および米フィラデルフィア連銀サーベイの結果が注目される。本邦通関貿易赤字は季節調整前計数で-2.5 兆円と、季節性があるとはいえ前月の倍、かつ 2 兆円台ということでインパクトのある数字で、発表後に円安圧力となる可能性がある。但し、この数字でも円安に振れないということだと、ドル/円は更に上値の重さが意識されることとなる。フィラデルフィア連銀サーベイも、火曜発表の NY 連銀分と同様に市場予想を下回るようだと、ドル/円は再び足許の 101-103 円のレンジ下限を試す展開となろう。

なお、1 月分通関貿易収支発表以降は、2 月からの季節的な赤字縮小傾向に目が向くことになる(下図を参照)。更に、2012 年 10 月以降円安化が明確化してから 1 年半が経ち J カーブ効果で貿易収支が改善に向かってもおかしくない状況の中で、今後は輸出がどの程度回復を見せるかが注目される。現在のところ、季節調整済(下図で SA と表示)の輸出額は昨年初以降増加傾向ではあるが、リーマンショック前の水準に全然達していないだけでなく、価格変動の影響を除き数量面での変化を捉える実質輸出は、2008 年以降の減少基調が続いている。このため今後、特に実質輸出反発の兆候がみられると、貿易赤字縮小開始のサインとなり、円売り圧力後退に繋がるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641